歴史

那珂川町の歴史を今に伝える史跡群

那珂川町には約1万年以上前から人々が暮らしはじめ、古代には関東地方で最も早い時期に造られたとされる駒形大塚古墳や、日本でも発見例が少ない夔鳳鏡(きほうきょう)が出土している那須八幡塚古墳など、有力な地域のリーダーが眠る古墳が那珂川流域に数多く造られました。また広範囲にわたり倉庫や建物が発見された古代那須郡役所跡である那須官衙(かんが)遺跡があり、那珂川町に那須地域の中心があったことを教えてくれます。

中世になると那須氏と宇都宮氏の支族である武茂氏がこの地を支配します。那須氏は三輪(小川地区)の地に神田城を築き、『平家物語』で知られる那須与一が誕生した場所として有名です。武茂氏は菩提寺である乾徳寺の東西に武茂城を築き、馬頭地区周辺を支配していきました。

江戸時代になると那珂川町の馬頭地区は水戸藩の領地となり、「水戸黄門」でおなじみの徳川光圀が9回視察に訪れています。

これらの歴史は、現在に至るまで文化財や遺跡といった目に見える形で語りかけてくれています。

鷲子山上神社(とりのこさんしょう)

平安時代〔大同2(807)年〕の創建と言われる鷲子山上神社は、県境が大鳥居と本殿の中央を通る全国でも珍しい神社で、本殿(1788年再建)、楼門(安養閣)(1815年建立)などは栃木県の文化財に指定されています。

TOPICS NAKAGAWA TOWN

金色に輝く大ふくろう

鷲子山上神社は『不苦労』『福老』とも記されるふくろうが崇敬され、別名『ふくろうの神社』ともいわれます。境内には金色に輝く日本最大級の大ふくろうがあり、運気上昇、金運の福徳のご利益があるとして多くの人々が訪れます。

白久山　長泉寺

那須三十三観音 第25番札所や関東九十一薬師 第61番札所にもなっている白久山長泉寺は、延徳3(1491)年に創建された曹洞宗のお寺です。

朱塗りの三重塔と牡丹が有名で、春の見ごろには訪れる多くの参拝客の目を楽しませてくれます。

山門から本堂をのぞく

三重塔

年に三度花が咲いたという伝承の三度栗

徳川光圀ゆかりの馬頭観世音を祀る馬頭院の本堂

馬頭院

勝軍山　十輪寺　地蔵院として開創され、後にこの地方が水戸藩の領地となり、元禄5(1692)年に訪れた第2代水戸藩主徳川光圀公が、本尊を馬頭観世音菩薩に、そして寺名も馬頭院と改めたと伝えられています。

その際に光圀公が植えたとされる枝垂れの栗は樹齢300年以上になります。年に3回開花するという伝承から、「三度栗」とも言われ、栃木県指定の天然記念物となっています。

武茂氏の家紋が入った山門

乾徳寺

乾徳寺は、中世にこの地を治めていた武茂氏の菩提寺です。境内の近くに武茂城跡があり、乾徳寺の山門は武茂城の表門を移築したもので、安土・桃山時代の様式を取り入れ、武茂氏の家紋が刻まれた立派なものです。武茂城跡とあわせて栃木県指定文化財となっています。

白藤の名所としても知られ、藤の花は一般的に棚から垂れ下がって咲きますが、乾徳寺のものは棚から上に向かっていくように咲くことから、のぼり藤の愛称で親しまれています。

乾徳寺の白藤

歴史

歴史を学び、
先人たちの思いを『体験』する

那珂川町なす風土記の丘資料館

那珂川町には、日本の古墳時代を考えるうえで重要な那須小川古墳群（国指定史跡）を始め、数多くの史跡が残されています。那珂川町なす風土記の丘資料館は、それらの貴重な資料の保存と有効的な活用を図るため、栃木県が設置し、平成27（2015）年に町に移管されたものです。

常設展示では縄文時代から奈良・平安時代にわたり那須の古代文化を概観できるようになっているほか、体験講座なども行い、多くの方々に利用されています。

[写真上]復元した竪穴住居
[写真左]なす風土記の丘資料館外観
[写真右下]那須八幡塚古墳群（国指定史跡）

有形文化財ホテル 飯塚邸

本宅外観

馬頭地区の市街地は盆地のような地形で乾燥しやすく水利も悪かったため、江戸時代の後期には火災の被害が多かったそうです。住民からは用水を望む声があがりましたが、川から距離が遠く、難所も多いため一時は頓挫します。

安政5（1858）年に飯塚家の二代目、善左衛門が庄屋になると、健武から水を引く計画をし、この大事業を成し遂げました。用水が開通すると住民は歓喜し、その功績をたたえて「馬頭水道の碑」を建てました。この碑は今も静神社境内に残っています。

この善左衛門の屋敷である飯塚邸は、当時の面影を色濃く残した厳かな作りで、現在は泊まれる有形文化財として活用されています。

新宅リビング

馬頭水道の碑

インタビュー Interview

那珂川町の「歴史」を通じて子どもたちのイキイキと楽しく活動している姿を見れるのはいいですね

まちの宝こんなこと、素晴らしい

なす香代表

池澤　健さん

（小川）

那珂川町なす風土記の丘資料館の体験講座では、新年に向けてのミニ門松作りが行われ、参加者は真剣な中にも和やかな雰囲気で取り組んでいます。その制作をサポートしているのが、なす風土記の丘資料館ボランティア「なす香」の方たちです。資料館に訪れた方への展示解説、周辺史跡の解説、体験講座の補助などを行っている団体で、平成18(2006)年以来さまざまな活動を続けています。

現在代表を務める池澤健さんは、定年退職後に地元に戻り、これからは地域に恩返しをしようと改めて地元の歴史や文化に目を向け、町史で学んだりしながら、資料館で開いている歴史解説員養成講座を受講。受講後は「なす香」に登録し、7年前から活動に参加しています。

主な活動としては、町内や県内の小学6年生が資料館を訪れて、歴史の体験授業を行うため、その補助をすることです。勾玉づくり、火おこしなどの体験を行い、受講者は年間5～6,000人にもなるとか。火おこしは1時間ほどの体験では火をつけるのは難しく、池澤さんがボランティアを始めた頃の成功率は1割くらいでした。しかしメンバーの益子貞夫さんが、参加者には全員に火をつけてもらいたいと火おこし器に改良を加え、現在は7～8割にアップしました。参加する小学生たちに引率の先生方が、学校の授業もこれくらい集中してやってくれれば…とこぼすくらいの熱中ぶり。池澤さんは「集中してイキイキと楽しくやっている姿を見るのはいいですね」と笑顔がこぼれます。ただし、火おこしの時などは特に危険なので、事故が起きないように細心の注意を払っているそうです。

体験授業を受けた小学生からお礼のメッセージが届きます

他にも、古代米の栽培を行っています。米作りは草取り、草刈りが大変で、メンバーで協力して行い、現在はコロナ禍でできていませんが、収穫した米で餅つきをして、豚汁などと一緒にみんなで食べるのも楽しみの一つです。

池澤さんはこれからの希望として、「『那須国』と呼ばれていた地元のことを学んでもらい、地域の人が夢をもってボランティアに参加していただきたい。また、自分ももっと地域の歴史を学んでいきたい」と、にこやかに話していました。

体験講座の補助をする池澤さんとなす香の人たち